

このニュースは、NPO日本文化体験交流塾の活動にご興味をお持ちになった方にお送りしていますが、不要の方は返信メールにてご連絡ください。

第1 新着ニュース

◆ 1. ☆☆☆ 京都中央卸売市場買出しツアー受付開始 ☆☆☆

関西支部 研修担当の中塚公子さんによる元気企画（自主研修）です。

京都中央卸売市場には活きのよい様々な魚が並び、実に壮観で、どこよりもずっと安くもあります。京都の料亭やレストランはここで仕入れます。年末の買い出しに行きませんか？ 京都の隠れた観光資源です。

・朝8時半JR丹波口駅集合、1.5時間くらい、現地解散、参加費300円、定員10名、緊急連絡先：090-6203-4380 中塚まで

・申込は、keemee-naka18@ezweb.ne.jpまで（メールが無理な場合、中塚までお電話下さい）。

◆ 2. ☆☆☆ [三十三間堂とその界限研修 は午前の講演に残席があり](#) ☆☆☆

1月15日（日）中村武生さん（歴史地理学者）による三十三間堂とその界限研修は午後の歴史ウォークは満席となりました。午前の講演は残席が少しあります。（これから午後歴史ウォークに応募される方はウェイティングリストにお名前を載せ、キャンセルが出次第お声をかけさせていただきます。）

9：45～11：45 講演、13：00～15：30 歴史ウォーク、詳細は添付ファイルをご参照ください。

◆ 3. ☆☆☆ [大阪城研修](#) ☆☆☆

関西支部 研修担当 中塚 公子さんによる元気企画（自主研修）です。

大阪城は大阪一の観光地です。豊臣大坂城は現在の徳川大阪城地下に埋められています。歴史を学び、大阪城を歩いて回ります。

1月15日の研修案内の隅で広報しましたところ、応募者が相次ぎました。あと2名参加受付可です。よかったらどうぞ。主だった観光地は、直前に仕事のオファーがあってもガイドンクができるようにしておくのが肝要かと思えます。（外人向けツアーで大阪での主だった案内先は、大阪城、大坂歴史博物館、四天王寺、道頓堀です。）

第2 その他情報

1. 植田正幸先生（考古学者）の講演は好評でした！！

延期されていた植田先生（考古学者）の講演が12月18日ドーンセンターで行われました。本題の邪馬台国論争に入る前に、12世紀に使われていた食器や漢の鏡に付着した絹を実際に見たり触れさせることで、考古学とはどんな学問かという簡単な説明があり、最近の磐余の池の発掘の話、地震考古学へと話は広がりました。ガイドの研修ということで、大坂の町の成り立ちを、安政東海地震津波（1854年）で大坂の町のどこまでが水でつかったかをその当時の地図を使って示して説明がありました。上町台地以外の大きな部分は、淀川と大和川で運ばれた土砂で埋め立てられてできた土地で（2つの川の間だから河内というそうです）、低い土地になっています。その当時の大坂の町では、梅田あたりが田んぼで（“うめ田”）、道頓堀の南も田んぼや刑場やらお墓があり、現在御堂筋があるところには、東本願寺と西本願寺の御堂が南北に並んでいて、もっと南に行くと、難波村があったのを、その当時の地図で確認しました。その話の後、纏向（奈良の三輪山の近くの町で、邪馬台国がここにあったのではないかと注目されている所）の本題に入りました。葬制（死者をどう弔うか）を研究することにより、前方後円墳（邪馬台国型）をもっている体制の方が、前方後方墳（狗那国型）の体制より優勢であったことがわかり、邪馬台国というのは纏向を中心とする広域連合国家であったらしいと推測できること、また景行陵の南の、韓国式土器が発掘されている場所近くがどうもその中心地であったのではないかなど、熱っぽく講演されました。

なお、植田先生が纏向等に行かれるときに、興味のある人は同行が可能だそうで、その際にはメールニュースで呼びかけます。

（参加者Mさんから）

先日は上田先生の講演でお世話になりました。もう、3回目の講演(ウオーキング)でしたが、やはり、面白い講演でした。何より、考古学がお好きでたまらない様子が伝わる講演会ですね。実際出土品に触っていい機会などめったにないので、体で記憶できる考古学になりますね。ガイドに役立つ、いろいろな角度からの、お話や、豆知識などの豊富で、また、披露していただきたいと心からおもいます。

2. 関西でのイベント・研修情報

◆12月21日終い天神、12月25日終い弘法、1月21日初天神、1月25日初弘法・・・行ったことがない人は一度見に行きましょう！

◆1月26日14時～15時 英語でのお茶会、町屋ゲストハウスならまち、大岡やよいさん、1000円、先着10名

築100年をこす奈良町の町家のしっとりとしたお座敷で、肩ひじをはずしお茶の心を伝えようという催しです。是非どうぞ。

問合せ・申込み yybasil@ray.ocn.ne.jp

◆朝日カルチャーセンター京都、問合せ・申込 075-231-9693

2月18日(土) 10:30~12:00 『日本の仏教を考える・歴史編 ー思考の構造と展開ー』

末木文美士(ふみひこ)氏(国際日本文化研究センター教授) 3465円

仏教は日本の歴史の中でさまざまに変貌しながら、精神構造のバックボーンを形成してきました。この講義では、その細かい歴史を追うのではなく、仏教の発想法がどのような構造を持ち、それが歴史的にどのように転換してきたかを概観してみます。それは、現代人が忘れてしまった中世的な世界観を見直すことにもなるでしょう(続編として、日本の仏教を考える・現代編を4月頃を開講する予定です)。

<http://www.asahiculture.com/LES/detail.asp?CNO=142597&userflg=0>

◆佛教大学四条センター公開講座、予約不要、1回1000円、問合せ075-231-8004

○『資料で読み解く近世京都と与力・同心の世界』 渡邊忠司(佛教大学歴史学部長)

・1月23日(月) 京都町奉行所与力・同心の明治維新

京都町奉行所の与力・同心が明治維新と、混乱期の治安維持にいかに対応したか、犯罪者と捕縛、治安維持の実態を具体的なじれから探ります。

・2月13日(月) 二条城与力・同心の明治維新

幕末期の京都で、与力・同心は政治変動にいかに対処していたのか、二条城の与力・同心にとって、明治維新がもたらした「現実」を探ります。

○『日本歴史における光と影』 笠谷和比古(国際文化センター教授)

・1月11日(水) 吉宗の享保改革と日本の近代化?

徳川吉宗の享保改革は単なる江戸幕府の財政再建にとどまらず、18世紀の日本社会の発展に対して決定的ともいえる影響をおよぼした。その影響は多方面にわたるが、今回は能力主義的人事制度や一般庶民の武士社会への参入などの問題を取り上げ、組織の近代化を見ていく。

・2月8日(水) 吉宗の享保改革と日本の近代化?

吉宗の享保改革においては薬種の国産化プロジェクトが国民的規模で展開された。そこから日本全国の分布する国富の総合調査へと発展し、物産学や博物学の形成をうながした。さらにそれはヨーロッパの学術に注目して蘭学を生み出し、天文学や地理学などの発達ともあわせて近代的な「知」の形成に大きく貢献した。

◆産経ウェブ

○『演劇と演芸の街、道頓堀体験』 4800円(道頓堀散策、お芝居、昼食つき)

1月23日(月)、24日(火)26日(木)、2015年に400周年を迎える道頓堀界隈をめぐる「演劇と演芸の街、道頓堀体験」を開催します。道頓堀・浮世小路や法善寺横町を案内人と散策。昼食は道頓堀今井の「寿膳」をいただき、道頓堀ZAZAで「藤間劇団~座長・藤間智太郎~」芝居とショーを観劇します。見応えある人情芝居と気っぷのいい台詞廻しをお楽しみください。

詳細・申込: <http://wave.sankei-kansai.com/2011/12/post-112.php>

○『方除の大社 城南宮を訪ねる』 4500 円（宮司のお話、正式参拝、昼食、京セラ・ファインセラミック館訪問）

1月27日（金）に、「方除の大社 城南宮を訪ねる」を開催します。城南宮（京都市伏見区）を訪ね、鳥羽重宏宮司からお話を聞きます。

詳細・申込：<http://wave.sankei-kansai.com/2011/12/post-100.php>

◆芸妓舞妓さんクイズ

1. 舞妓さんの襟首の白塗りの足は普段は2本、儀式のときは 本
2. お茶だけを出すわけではないのに、お茶屋と呼ばれるのはなぜか？ — 発祥した経緯が答えの鍵になります。
3. 京都の花街に芸妓は196人、舞妓は77人、お茶屋は165軒（2007年）。近年、芸妓の数は減少から下げ止まり、舞妓の数も微増している。現在、舞妓の 割以上が京都以外の地の出身者。
4. 舞妓芸妓さんの起源は____世紀でしょうか？ 意外と近年です。祇園甲部のある花見小路は明治になるまで、建仁寺の境内でした。

答えは次のサイトの中→ <http://everkyoto.web.fc2.com/report46.html>

NPO法人日本文化体験交流塾 理事 関西支部長 上原 護

Address：uehara.ijcee@gmail.com

Phone: 080-5646-1100
